


教育心理学会2005 自主シンポジウム D-3

## 就職と自己 - 自己分析という迷宮 -

問題意識と企画の趣旨

若松養亮(滋賀大学)


1



## 問題意識

- ◆ 職業を中心とする進路意思決定はそもそも難しい課題
  - ・ 人生の「進む道」「生き方」を左右する重大性
  - ・ 確たる「定番の基準」はなく、価値観によるところ大
  - ・ 知りたいことでも知り得ないこと・偶然によること多し
  - ・ 数値化して選択肢間で比較可能な情報はごく一部
- ◆ しかし「難しい」のは彼らの考え方・方略にも問題
  - ・ 「とにかく自己分析が重要」という教え・思いこみ
  - ・ 確かに自己分析(自己理解)は重要
    - それがなければ選ぶ手がかりがない
    - また就職後のミスマッチの可能性が増大
  - ・ しかし効果的な自己分析ができていますか？

2



## 自己分析が成功していないという論拠


顕在化しているいくつかの問題

- フリーター、ニートの増大(小杉, 2003; 2005)
- 早期離職者の多さ(厚生労働省, 2005)
- 就職活動中に問題化するミスマッチ(安田, 1999)
- 意思決定の遅延者の多さ(若松, 2001)

自己分析に戸惑い立ち止まる若者、という論評の多さ

- ・「現代では相当多くの若者が、個性や自己実現を要求する社会の雰囲気疲れ切っている」(玄田, 2004)
- ・「就職は自分探し、あなたにとって働くとは何かといったメッセージの影響を受けて、かえって就職に二の足を踏んでしまう若者も、またこれを実践したのに就職に結びつかない若者も少なくない」(香山, 2004)
- ・「今の若い人にとっては何よりも目立つことが価値になっている。そのため、目立たないことがプレッシャーになり、劣等感になっていく」(小林, 2004)

3

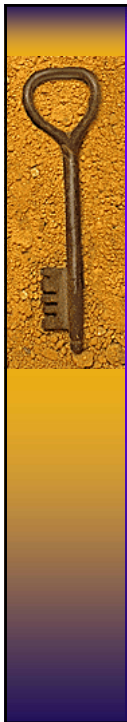


## 彼らの自己分析に危惧されること

- a) 「これまでの自分」から見つけようとする  
少ない経験 & 「こう変わるか」ではなく
- b) 進路情報収集に先立って行おうとする  
現実に選択に役立つ自己分析になりにくい
- c) 天職・適職が自分にも何かあるという信仰  
専門性も訓練経験もない者に適職はない
- d) 進路で自己実現することへのこだわり  
入職前に十分な推論が可能か & 他の機会では？

なぜこうした自己分析をする学生が多いのか？  
もっと良い自己理解のあり方や方略を提起できないか


4



## 彼らの探索行動を点検する

- ◆ 被験者は文科系を中心とした大学3年生380名  
教員養成学部は対象に含めていない
- ◆ 進路探索行動13項目を呈示  
入学～3年生1月の頻度について5件法で評定させた  
Stumpf et al. (1983) のC.E.Sを改変したもの
- ◆ 因子分析による類型化
  - .内省的 例) どういう人間かをじっくり考えてみた
  - .情報収集 例) 特定の会社や職務について情報を手に入れた
  - .外的活動 例) ある役割を好きになれるか、試しについてみた

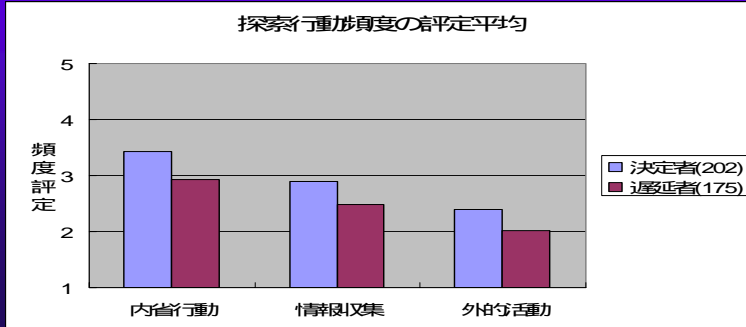
5



## 探索行動は内省的なものが多い

- 決定者の内省的な行動が平均3を越える程度  
評定3は「まあまあした」  
「決定者」とは「もう迷わない選択肢」を持つ者
- 全因子で遅延者は決定者より頻度小  
遅延者は探索の少なさと内容的偏りの二重苦

探索行動の頻度の評定平均



探索行動の種類	決定者(202)	遅延者(175)
内省行動	3.5	3.0
情報収集	3.0	2.5
外的活動	2.5	2.0

6



## 探索行動を「快適さ」で評価する

- ◆ 探索行動と意思決定行動の主観的評価の関連  
内省的探索は「快適さ」をもたらしているか？
- ◆ 「快適さ」とは...決めてきたことへの納得や確信、現時点での不安や危機感の少なさ

C.D.P. (Jones, 1989)内の項目を改変

私は卒業後の進路について今まで考えてきたことや決めてきたことに納得しており、スッキリした気持ちでいられる

私は卒業後の進路選択について心配していない

私は、卒業後の進路を考えたり決めたりすることに、とても苦労させられている(させられた)

7



## 探索行動と快適さの関連

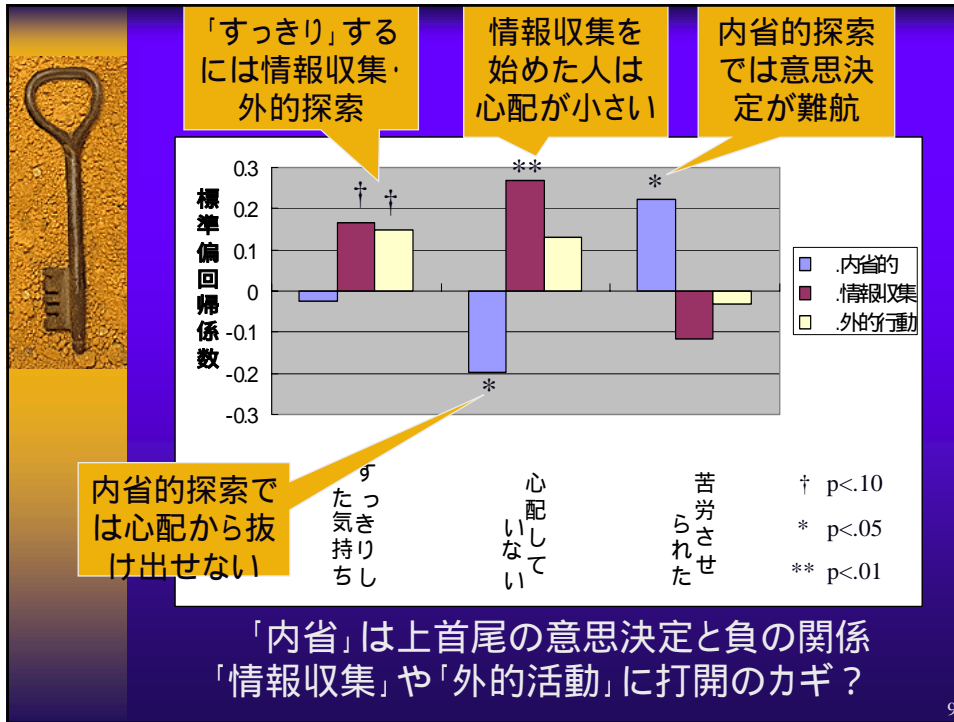
目的変数：快適さの項目ごとの評定

説明変数：3種類の探索行動の因子得点  
で重回帰分析(遅延者のみを対象)




どんな探索行動が主観的に良い(悪い)感覚をもたらしているかを検討したい

8



## シンポジウム開催にあたって

- ◆ 自己へのこだわりは危険である可能性  
 もちろん軽視するのも危険であるが
- ◆ その問題性は仮に小さいとしても... 自己分析のより良いあり方を模索する意義は大きい(開発的進路指導としての意義)
- ◆ 「青年と自己」「自己意識」の問題は進路以外の領域でも多くの研究を生むテーマ  
 進路研究者以外からも話題提供とコメントが欲しい 自己意識の研究者とのコラボ



## メンバーの紹介


企画者：若松養亮(滋賀大学)  
下村英雄(労働政策研究・研修機構)

司会者：若松養亮

話題提供者：下村英雄  
山田剛史(京都大学)

指定討論者：上瀬由美子(江戸川大学)  
佐藤有耕(筑波大学)

11



## 引用文献

玄田有史(2004) 自己実現疲れ、個性疲れの若者を支援せよ 論座  
2004年8月号, 36-39.

Jones, L. K. (1989). Measuring a three-dimensional construct of career indecision among college students: A revision of the Vocational Decision Scale-The Career Decision Profile. *Journal of Counseling Psychology*, **36**, 477-486.

香山リカ(2004) 就職がこわい 講談社

小林道雄(2004) 「個性」なんかいない! 講談社

小杉礼子(2005) フリーターとニート 勁草書房

厚生労働省(2005) 平成17年版労働経済白書  
(<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/05/index.html>)

Stumpf, S. A., Colarelli, S. M., & Hartman, K. (1983). Development of the career exploration survey (CES). *Journal of Vocational Behavior*, **22**, 191-226.

安田雪(1999) 大学生の就職活動 中公新書

若松養亮(2001) 大学生の進路未決定者が抱える困難さについて - 教員養成学部の学生を対象に - 教育心理学研究 49, 81-90.

12